

パワーリベラメンテの展開(26)  
—追加のパワーリベラメンテの総合効果(4)—

1. 始めに

自宅に昔からの会社のオーディオ仲間 FK 氏と N 氏を招いて最近の進展を確認していただきました。会社のオーディオ仲間は定年後、遠方に再就職したりして、集まる機会が遠のいていましたので、随分と時間が空いてしまいました。この機会に[前報\(24\)](#)に引き続いて第三者による確認をしていただきました。

2. パワーリベラメンテ給電の総合試聴方法

試聴方法は前報(24)と同様です。

FK 氏と N 氏は随分と時間が空いた関係で最近導入したことはすべて初めての経験となります。従ってパワーリベラメンテのみならず、もともとあったものも含めて下記のすべての総合評価となります。

アナログ関係

LINN LP-12 Garrado401

i-Phono

デジタル関係

EMT981

micro iDSD

DA-3000 と MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 伝送

HQPlayer と Hi-Res Editor

クロック関係

GPS-777 ABS-7777 CCV-5

LAN 関係

無線ルーターや終端装置などすべて

ケーブル関係

全リベラメンテシリーズ

映像関係

BZT-9000

### 3. パワーリベラメンテ給電その他の総合試聴結果

最初に JBL4350A で BS 録画の音を聴いていただき、弦の質感が向上していること、大編成オーケストラの低音楽器群、とりわけグランカッサの重低音の弱音まで再生できていることを確認していただきました。ひさしぶりに JBL4350A で Jazz を聴こうということになり、N 氏が持参いただいた、お馴染みのソニーロリンズの通常の CD、Victor の 20 ビット K2 リマスターの CD、マスターテープから起こした金蒸着の米国プレス CD を EMT981 で再生して聴き比べました。通常の CD は聴きなれた音でしたが、K2 はワイドレンジでダイナミックレンジも大きいように聴こえ、米国プレスは元のマスターテープに近いのではないかと思わせるような CD らしからぬ音がしました。同じ曲のアナログ盤は国内プレスで、EMT の XSD-15 という時代物のカートリッジでしたが、CD とはまったく異なった味わいで、やはりアナログは良いなという声があがりました。拙宅にはソニーロリンズの米国プレス盤がありましたので、アナログ同志を聴き比べますと、やはり音は違い、米国プレス盤の方が JBLらしい厚みのある音だという感想がありました。なお、アナログについては iPhono のイコライザーカーブを切り替えてみましたが、コロンビアカーブがしっくりするような印象でした。

ここで、スピーカーを FAL C90EXW に替え、N 氏が持参されたカーペンターズのロンドン公演のライブ録音を CD とアナログで聴いてみたところ、やはりソニーロリンズと同様の感想でした。CD については Plextor Premium 2U で再生し、HQPlayer で 22.5MHzDSD にリアルタイム変換して聴いてみたところディテールの再現と空間の広がりが増えるようになったという感想がでました。

さらに FK 氏持参のオイストラップ／オポーリンの極め付きの銘盤であるスプリングソナタのアナログ盤と CD を比べましたが、ここでもアナログ盤の良さが感じられ、アナログから遠ざかっている FK 氏もアナログ復活の意欲を掻き立てられたようでした。CD の方を 22.5MHzDSD にリアルタイム変換して聴いてみたところ、弦の艶が増した印象でした。

ここで PC オーディオの DSD Native 再生に切り替え、最近の 22.5MHzDSD 録音音源をジャズピアノのソロ、アカペラ、モーツァルトのピアノソナタ、ジャズトリオと聴いていただきましたが、FK 氏がたちどころにジャズピアノのソロのピアノの音が違うと指摘されました。これは丈清の弾く Fazioli で、よく聴くスタンウェイ、YAMAHA、ベーゼンドルファーと違うことが分かったということでした。FK 氏は親交のあるピアノ演奏家からピアノの音の違いを教えてもらったそうです。ともかく最近の高周波数 DSD 録音の進歩は納得してもらったようでした。

ここで CD に戻って N 氏が持参されたホーリー・コールの CD の国内プレスと英国プ

レスを比較したところ、この場合も音の透明度とかディテールの再現で国内プレスが劣勢でした。

この後、拙宅にあるジャズのフルバンドやハリーベラフォンテの CD を聴いていただきましたが、ハリーベラフォンテのカーネギーホールの CD を 22.5MHzDSD にリアルタイム変換して聴くと、とても古い録音とは思えず、マチルダに湧く会場の雰囲気伝わってくるようだという感想でした。この後、ハリーベラフォンテと同じ歌をトリオロスパンチョスのアナログで聴いたり、ベルリンフィルの **Digital Concert Hall** を聴いたり、アルコールも効いてきたので、ジョン・デンバーや高橋竹山や田畑義夫や西田佐知子のアナログもかけていきました。

#### 4. まとめ

最新の DSD 録音や CD をリアルタイム DSD 変換して聴く効果を確認していただけたと思います。さらに BS 放送やネットのストリーミングサービスの音質の現状も確認していただきました。パワーリベラメンテは影でサポートしていたわけですが、FK氏は特に GPS クロックについては興味を惹かれたようでした。

興味深かったのは、同一マスターのアナログと CD の比較、アナログと CD それぞれのリマスターや国内外のプレスによる音質の違いもよく分かったことです。このような差がはっきり分かるのは装置のレベル向上があるからではないかという感想もいただきましたし、もっと国内の音楽産業の技術者は頑張ってもらわないと困るという声もありました。

以上